

Zoomでシコふんじやった



立教大相撲部「密」避けオンライン稽古

あの映画監督も、「一緒に四股踏んじやいます」。創部101年の歴史を持ち、1992年公開の映画「シコふんじやった」のモデルとなった立教大相撲部が、新型コロナウイルス対策で、オンライン稽古に取り組んでいる。「密」が避けられない土俵から自宅へ場所を移し、現役部員にコーチ、卒業生らも加わって、それぞれが画面の前で汗を流す。

「四股100回いこうか!」。6月下旬、土曜日の朝、テレビ会議システム「Zoom」でつながった十数人が、一斉に四股を踏み始めた。その中には、「シコふんじやった」の監督・脚本を務めた立教大OBで、2年前に相撲部名誉監督に就いた周防正行さん(63)の姿もあった。1分程度の短い休憩を挟みつつ、腕立て伏せ、スクワット、すり足、と次々にメニューをこなす。息を切らしたり、動きが鈍くなったりする参加者もいたが、1時間超の稽古を全員で乗り切った。

4年生の玉真祐雄・主将(21)は、この試みに手応えを感じている様子。「対面ではできないけど、オンラインでつながることで一人ひとり



周防正行さん

周防さんもOBも 高校生も一緒に

が自覚を持って取り組める。部員一同、励まっています。毎週のように参加する周防さんには「相手がいらない中で稽古は難しいかもじゃないが、今は基礎の体力をしっかりとつけてほしい。一緒に稽古していい人がいるんだ、ということも少しだけでも励みになるはず」とエールを送った。

相撲部は、国内の感染拡大が始まる前の2月下旬、学生の安全を考慮して土俵での稽古をやめた。自主稽古に切り替え、全員参加のオンライン稽古は新年度に入った4月から毎週土曜日に実施。土俵での稽古を再開できるようになるまで継続するつもり。

実は、稽古環境より深刻なのが部員の数だ。現在、選手は3人。長年にならぬ部員不足に悩まされ、5人が必要な団体戦は他の部活に助っ人を頼んで出場することが常態化している。しかも今年度は、部にとっても1年で最も重要な新入生歓迎の時期にコロナ禍が重なってしまった。

そんな苦境の中、オンライン稽古を先を見据えた勧誘にも生かしている。ネット環境があれば全国から参加できる特徴を生かし、来年度以降に入部の可能性がある高校生に向けて公開。すでに、奈良県の高校相撲部員が稽古に参加したという。坂田直明監督(48)は「将来、立教を受験してもらえよう、みんな歓迎したい」と話す。問い合わせは、立教大相撲部 (f1kkyosuno@yahoo.co.jp) (松本雄三郎)



2019年の新入生歓迎の時期に行われた立教大相撲部の体験会。部員らのアドバイスを受けながら四股を踏む新入生(中央)

立教大相撲部の名誉監督を務める周防正行さん(左)。現役部員と一緒にオンラインで汗を流す

見違える迫力 茅ヶ崎から世界へ

サーフィン 松田詩野(17)

中日 A・マルチネス

外国人捕手 20年ぶり出場

年	選手	所属	試合
1952	広田晴	★巨人	79
53	広田晴	★巨人	114
54	広田晴	★巨人	106
ク	ルイス	★毎日	130

■2リーグ制後、試合数以上出場し

中日は今年10年目のA・マルチネスの1試合だけの1991年は1991年アイズ(ロッツ)た、ディアアアに15試合、の場し、荘勝場、ツテリーが新



松本安太郎の TOKYO 応援宣言

松本安太郎の TOKYO 応援宣言